

北九州市立玄海青年の家指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日（水） 9：30～12：00
- 2 場 所 小倉北区役所7階 特別会議室
- 3 出席者 （検討会構成員） 山下智也構成員、山下比呂志構成員、
玉井構成員、田村構成員、小林構成員
（事務局） 子ども家庭局こども若者成育課
こども若者成育課長、管理係長、職員
- 4 会議内容
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
 - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明。
 - 構成員の互選により、座長を選出。
 - 応募団体（玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体）より提案概要に関してプレゼンテーション及び質疑応答を実施。

（構成員） 太平ビルサービス（株）が施設の管理について清掃等様々な業務を引き受けられているように、（共同企業体を構成する）各会社で分業し、その連携はうまく行えていると思うのだが、例えば、毎月会議をする等、どのような形で連携・引継ぎを行っているのか。

（応募団体） 共同企業体の代表企業である太平ビルサービス（株）は、施設職員の雇用及び指定管理者の管理を担当している。
指定管理の明確な目標設定とその適正な評価を行うため共同企業体構成企業は3ヶ月に一度、「共同企業体会議」を実施している。さらに現場に対する的確な評価・指示を出すため、所長と本部職員による「施設長会議」を招集し、指定管理業務を定期的に評価し、改善を行っている。
また、協議が必要な事項が発生した場合は、問題解決に向けて情報共有しながら解決に取り組んでいる。

（構成員） 職員の研修について、毎年の職員の退職や入職等による人の入れ替わりがどの程度あるか。

（応募団体） 今年度、玄海青年の家で2名いた。毎年ほぼその程度である。

(構成員) メンバーが大きく変わって新人だけになるというような状況はあまり無いということか

(応募団体) 過去18年ではない。

(構成員) コーディネーターやカウンセラー能力、コミュニケーションの研修についてお聞きしたい。

(応募団体) 研修について、新任研修は、一般的な接遇も含めて、青少年施設のありようを教えている

ファシリテーション能力研修及びプロデュース能力研修は、主催事業(例えば親子キャンプ)を先輩と一緒にコーディネートする等OJTによる研修を行っている。その中で、必要な能力をまた別の研修で活かすという形をとっている

(構成員) 自然教室等での宿泊研修も多いと思うが、指定管理者の方で、事故、怪我のかかりつけ医を、土日診療、24時間対応も含めて決めているか。

(応募団体) 平日昼間の怪我の対応で、利用者を連れていく病院を近隣の病院から決めている。土日、夜間においては個人病院では対応できないので、対応可能な病院の情報を事前に準備して連れていく先を決めている。

遠くから来る学校は、学校の近くの病院に連れて行きたいという要望が多いため、その都度、病院を探したりしている。

(構成員) カヌープログラムの安全管理について伺いたい。

18年間、事故や怪我なく安全にカヌー事業を行っているということだが、カヌーに知識がないものとして、子どもを預ける時に本当に大丈夫なのか不安になる。事故や怪我とまではいなくても、ちょっとしたトラブルがあったのであればそのトラブルの解決に関する情報も提示することで、保護者や利用者は安心できるのではないか。

(応募団体) カヌープログラムでは、18年間事故を起こさないよう、装備・健康状態の把握・指導・監視の全てにわたって職員が対応している。

特にカヌーを担当する職員は指導者プログラムを受けた職員を配置している。また、常に安全管理マニュアルに沿って、職員の質向上も含めた管理をおこなっている。加えて、カヌー指導者の養成が可能な職員もいるため、安全管理については特段の注意を払い、かつ、ノウハウも持っていると考えている。

(構成員) 体育館のトイレが、しばらく壊れたままになっているが、それは、指定管理者で修理するのか。市が修理するのか。

(応募団体) 体育館のトイレは、男女共有であり、時代にそぐわないことから、修理

していない。仮に実施する場合には、大規模な工事になるので指定管理者で修繕できる金額を超えている為、市から実施することとなる。

施設の修繕については、市と協議しながら優先順位を決めて適時行っている。

(構成員) 安全管理をしっかり行っていることを重々承知した上で、「事故」というところの捉え方が少し、先ほどの構成員からの質問の意図と違うのではないかと考えている。

病院に連れていくレベルの大きな事故に繋がることは防いでいると思うが、池に落ちたとか、打撲などの軽微な怪我は、むしろ、安全教育の機会になると思っており、それを「ゼロ」にすべきだとは思わない。

先ほどの質問の意図は、事故が18年間「ゼロ」とするよりも、打ち身や切り傷等、軽微な怪我はあることを前提に、保護者にもお知らせした方が、評価しやすいし安心できると思うが、その辺りの考えを聞きたい。

(応募団体) 管理できる範囲の中で、子どもたちにチャレンジさせると、軽微な怪我はある。できるだけ、いろんなことにチャレンジして、やけどをすとか、ナイフで切るだとか、釣り針が刺さったとか、そういったことは子どもたちにとって大切な、成長していくための糧になると思うので、重篤な怪我にならない範囲で安全管理を行っている。

「安全を守るべきところ」と「子どもが体験できる部分」とで、それを保護者にどのように伝えていくかというフィードバックの必要性もあると考えている。

とは言っても、主催事業等で怪我をした場合は、我々の管理下で起きていることなので、保護者の方に事情説明を行って謝罪している。

病院に通院される場合、障害保険に入っているのので、通院に関する情報提供も行っている。

○各構成員より総評をいただく

(構成員) 太平ビルサービス(株)と(有)カヌースクール九州との共同事業がうまくいっている。安全面にも十分に留意している。個人利用についても今後、検討をしていただきたい。財政面も問題ない。

(構成員) 18年間の経験があるということで、今後も子どもたちに貴重な体験をさせて欲しい。

参加する子どもの保護者へは、活動内容をどの程度説明するべきか検討して欲しい。

友人に確認したところ、規模が大きい学校だと、説明会の開催が難しく、1学年2クラスの学校だと体育館で説明会を行っていると聞いた。(説明会については、)ばらつきが無いようにできる範囲で検討していくべきではないかと思う。

(事務局) 説明会のことについて補足する。指定管理者は学校から説明会実施の要請があれば実施している。学校側の都合で、説明会を実施するところと実施しないところがあるというのが現状である。

指定管理者の努力の範囲外なので、理解して欲しい。

次に、個人利用について補足する。個人利用ができない理由が2つある。

1つめはハード面での理由。玄海青年の家の宿泊室が8人以上の部屋で、3人とか4人の家族の方を何組も受け入れることができない。

2つめはソフト面での理由。玄海青年の家は社会教育施設であり、単なる宿泊施設とかキャンプ場ではない為、泊まるだけというのは基本的に認めていない。よって、カヌーも含めたいろいろなプログラムもやって、社会学習の一環として利用していただくことになる。また、学校などの団体の利用に際しては指導員がつくが、職員の人数の制約がある為、各家族につけることができない。

年に数回、主催事業として、家族向けのものがあり、応募された家族の方を受け入れて、一緒にプログラムを行っている。

ハード面、ソフト面両方の制約があるので、ご理解いただきたい。

(構成員) 指定管理者としての長い経験が有り、今後も努力していきながら、教育委員会等と連携をしながら進めていって欲しい。

(構成員) 今年の8月に、玄海青年の家で、子ども会の連合会の大会を開催した。市外からもたくさんの方が見えたが、体育館のトイレが使えなかった為、不便な思いをした。指定管理者での改修が難しいのであれば、市が改修して欲しい。

(構成員) 基本的な理念や指針、リスクマネジメントの考え方はしっかり有しており、安定した運営が見込まれる。利用者にとって、利用しやすい施設であること、多様な主催事業がただのコンテンツ消費でなく、子ども主体の育ちにつながるようになることを期待する。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。